伊豆沼・内沼
サンクチュアリセンターニュース
Sanctuary Center News

水生植物園の湿地に生育するカキツバタ

カキツバタは湿原に自生するアヤメの仲間で、開発の影響で絶滅が危惧されています。

当財団では、伊豆沼・内沼に自生する野生のカキツバタの保護増殖に力を入れています。

Vol.168
令和6年度6月号

バス・バスターズ始まりました

開会式の様子

2004年からの防除活動により、オオクチバスは大きく減少していましたが、ここ2-3年は増加傾向が見られ、注意が必要な状態となっています。バス・バスターズの活動は繁殖抑制がメイン。皆さまのご協力も頂き、オオクチバスの繁殖を着実に抑制したいと思います。

三角網でバス稚魚を捕獲します。

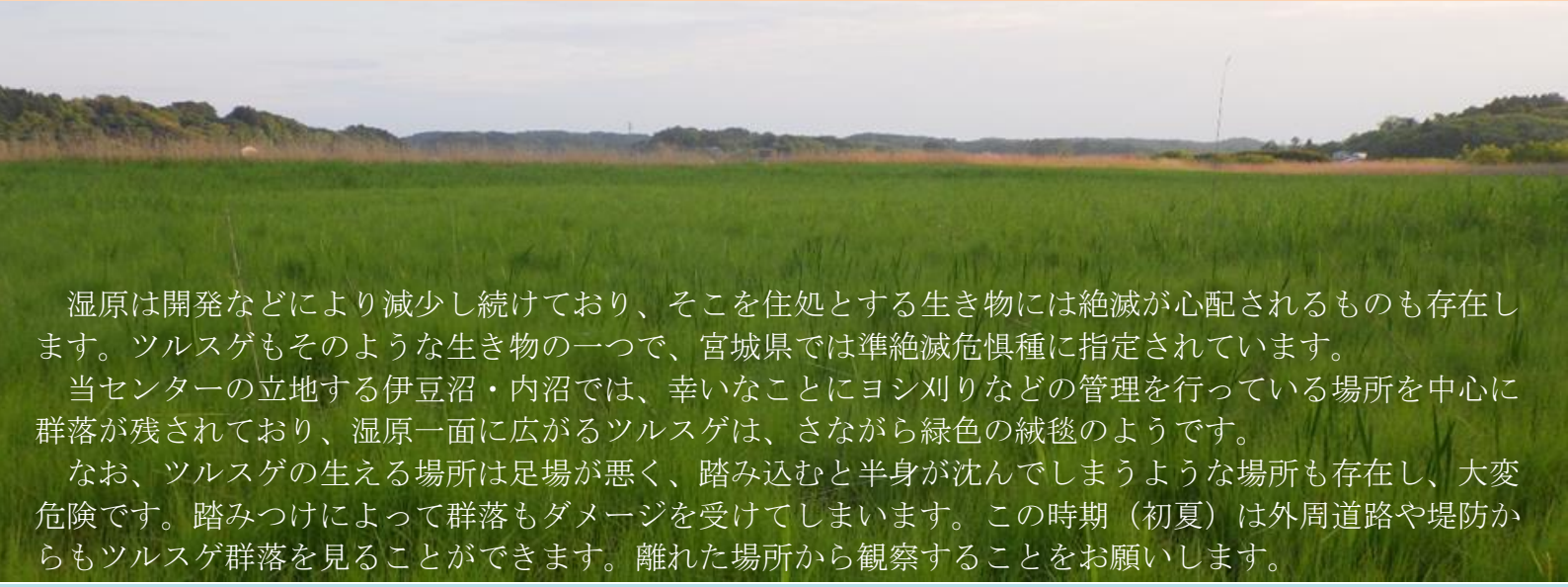
人工産卵床

産み付けられた
ブラックバスの卵

人工産卵床150基のうち、2基に
卵が産み付けられていました。

〈参加者全員で記念撮影〉

伊豆沼・内沼の自然　ツルスゲ



湿原は開発などにより減少し続けており、そこを住処とする生き物には絶滅が心配されるものも存在します。ツルスゲもそのような生き物の一つで、宮城県では準絶滅危惧種に指定されています。

当センターの立地する伊豆沼・内沼では、幸いなことにヨシ刈りなどの管理を行っている場所を中心に群落が残されており、湿原一面に広がるツルスゲは、さながら緑色の絨毯のようです。

なお、ツルスゲの生える場所は足場が悪く、踏み込むと半身が沈んでしまうような場所も存在し、大変危険です。踏みつけによって群落もダメージを受けてしまいます。この時期（初夏）は外周道路や堤防からもツルスゲ群落を見ることができます。離れた場所から観察することをお願いします。

サンカノゴイの越冬

サンカノゴイは湖沼、河川などの湿地に生息するサギの仲間で、田んぼでよく見られる白色のサギとは異なり、全体的に茶色をしています。環境省レッドリストでは絶滅危惧ⅠB類です。北海道では夏鳥、北海道以外では留鳥として見られ、ヨシ原などで繁殖します。個体数の減少が心配される鳥で、2020年～2022年の日本野鳥の会の調査では、繁殖しているオスは全国で17羽とされています（https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000068.000039807.html）。

このサンカノゴイがセンター前の池で冬の間見られ、財団では、2月18日、4月29日にそれぞれ1羽を確認しました。広大なヨシ群落など、抽水植物の発達した場所を好む鳥で、そこはまさに財団が保全対策のひとつとしてすすめているエコトーン（浅場）にあたります。サンカノゴイの越冬は、伊豆沼・内沼に充実したエコトーンがあることに加え、造成することの重要性を示したともいえます。写真：センター前の主池で見られたサンカノゴイ（4月29日、写真：白鳥晃氏）

“自然体験講座” 申込受付中（詳しくは、当財団ホームページ、または館内のチラシを参照）

水辺の生き物採集と観察会

初夏の沼では魚や昆虫が活発に動き回っています。これらの生き物を捕まえて、観察しよう。

第 2回 7/13(土) 10:00～13:00　参加費（昼食等を含む）：1人¥1,000

伊豆沼漁師体験

いろいろな網を使い、魚を捕る漁師になろう。大きな魚と出会えるかもしれません。

第4回 9/ 1(日) 10:00～13:00
第5回 9/14(土) 10:00～13:00
第6回 9/29(日) 10:00～13:00

参加費（昼食等を含む）：1人¥1,000

〒989-5504 宮城県栗原市若柳字上畑岡敷味17-2
宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリセンター
指定管理者　（公財）宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団
Tel0228-33-2216　Fax0228-33-2217
ホームページ:http://izunuma.org/
E-mail:izunuma@circus.ocn.ne.jp